



# CSR 報告書

## 2007

# CONTENTS

編集方針	2
トップメッセージ	3
会社概要	4
製品紹介	5
経営方針	6
中期経営計画	10
グローバルネットワーク	11
<b>環境報告</b>	
環境マネジメントシステム	12
環境目標・実績	14
省エネルギーへの取り組み	16
廃棄物削減への取り組み	17
汚染防止・化学物質管理	18
事業活動と環境負荷	20
環境に配慮した製品	21
<b>社会性報告</b>	
従業員とのかかわり	22
社会とのかかわり	26
<b>データ編</b>	
環境投資	28
安全衛生投資	29
サイトレポート	30
編集後記	31

## 編集方針

本CSR報告書は、環境活動報告、安全衛生活動報告に加え、社会的側面に関する記載の充実に努めました。

本報告書は、環境省「環境報告書ガイドライン(2007年版)」およびGRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2006」を参考に作成しました。

## 報告対象期間

2006年度(2006年4月1日から2007年3月31日)の実績が中心ですが、2007年度の取り組みを一部含んでおります。

## 報告対象組織

イーグル工業株式会社、イーグルブルグマンジャパン株式会社、コベルコイーグル・マリンエンジンアリング株式会社、岡山イーグル株式会社、島根イーグル株式会社、北海道イーグル株式会社、イーグルサービス株式会社、リグナムバイター株式会社、株式会社EKKアグリサイエンス、イーグルブルグマンテクノ株式会社、株式会社バルコム

報告書発行日:2007年10月25日

次回発行予定:2008年10月

## CSR報告書に関するお問い合わせ

イーグル工業株式会社 業務本部 総務部 CSR課  
TEL 03-3432-3892 FAX 03-3432-5448  
〒105-8587 東京都港区芝大門1-12-15  
URL <http://www.ekk.co.jp/>

# トップメッセージ ステークホルダーの皆様へ

EKKグループの中核企業であるイーグル工業株式会社は、1964年東京オリンピックが開催された年に東証一部上場企業であるNOK株式会社と米国シーロール社との合弁企業として設立され、その後、日本を始め世界40カ国に子会社・関連会社80数社を有する東証一部上場のグローバル・アンド・パブリックカンパニーに成長してまいりました。主力製品である各種ポンプ等に使われる軸封装置メカニカルシールを始め関連機器を世界中の約4,000名の従業員の手により文字通り世界中で作り世界中に販売しています。

直近の2007年3月期においては売上800億円弱、経常利益は75億円と5期連続最高益を記録しました。

このEKKグループが当面目指しているのは、顧客満足度(Customer Satisfaction)を高め、世界中のあらゆる産業における風水力製品の軸封装置に関するソリューション・プロバイダー(Solution Provider)として無くてはならぬ存在価値を持つ中堅優良企業、グローバル・インテグラル・カンパニー(Global Integral Company)たる事であり、それを確実にする為の経営姿勢・哲学や具現化させる為の各種活動について以下に触れます。

EKKグループはNOKグループの主力企業の一つでもあります、そのNOKグループの哲学、「企業は株主、従業員及び地域社会三者の共有物である」と言う考え方を全面的に経営の端々にまで展開しています。すなわち、働く従業員の満足度向上(Employee Satisfaction)を図る為に、あるいは地域社会に受け入れられる為に、各種法令の遵守を何よりも優先するコンプライアンス(Compliance)の徹底、自然保護の立場での環境経営の展開、あるいは環境保全への積極的貢献、労働安全衛生面に対する徹底した管理、製品の品質を確保する為の各種品質活動の充実などであり、そ

れらはISO14001、OHSAS18001、ISO9001、あるいはISO/TS16949の運用実施に表れています。

更には、イーグル工業は自動車・建設機械・船用・エアロスペース以外の一般産業分野においては、ドイツに本社を置くメカニカルシールメーカーのブルグマン社とアライアンスを組み、お互いの存在を尊重しつつ且つ補完しあいながら世界戦略を展開していますが、これらの思想はEBIアライアンス(Eagle Burgmann Industries Alliance)にも展開されています。

それらの考え方の徹底と実践が、地域社会において良き企業市民として共生し、従業員の会社への誇りと仕事に対する真摯な姿勢を育み、より質の高い仕事を顧客へ提供し続ける事により信頼を確保し、企業の最大の目標である適正利益の確保に繋がってきます。つまり私達はあくまで企業の長期的利益の確保を図る事を旨とし、その長期的利益の犠牲の元に短期的利益を追求する事は絶対に行わない。いくら儲かるからといって、環境を破壊する恐れがあったり、将来とも品質の確保や供給責任を果たせない可能性のある製品やサービスの提供はしない。そして、経営者が代わろうとも、従業員が移り変わっていくとも、いつの時代でも、いつまでも、EKKグループは、全てのステークホルダーが誇りを持てる、また地域社会からも愛される「良い会社」であり続けなければなりません。「良い会社」であり続ける、これがEKKグループの最終的に目指している姿であり、また「より良き社会」の実現の為に貢献していく事が出来る、これがEKKグループの願いであります。

イーグル工業株式会社  
代表取締役社長

鶴 鉄二



## 会社概要

1964年の設立以来、産業の基礎を支える製品づくりを中心に事業活動を進めています。

商号 ———— イーグル工業株式会社  
EAGLE INDUSTRY CO.,LTD.

本社所在地 ———— 〒105-8587 東京都港区芝大門一丁目12番15号  
電話 03(3438)2291  
http://www.ekk.co.jp/

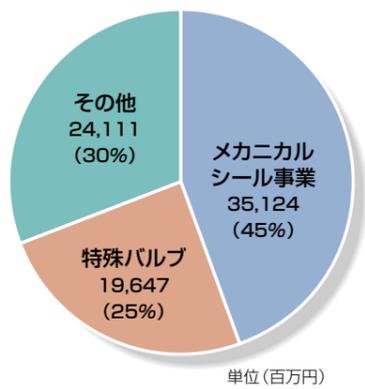
事業内容 ———— 汎用・工業用各種メカニカルシール、ガスシール、特殊シール、ベローズ応用製品、  
船用製品、ダイアフラムカップリング、特殊バルブ等の製造販売

資本金 ———— 10,490,981,500円

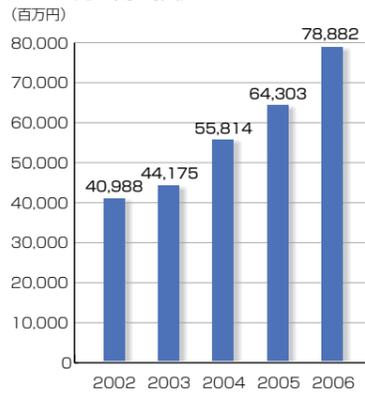
従業員数 ———— 3,438名(EKKグループ)

(2007年3月31日現在)

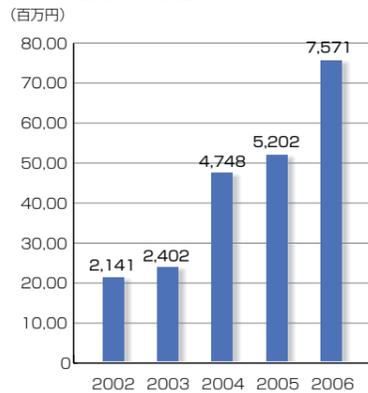
2006年度事業別売上構成比(連結)



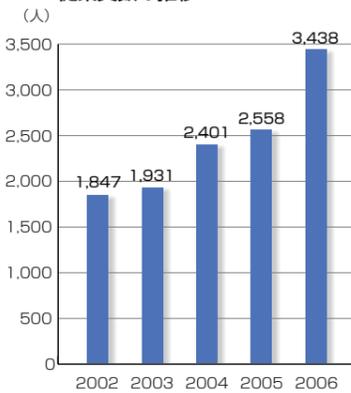
売上高の推移



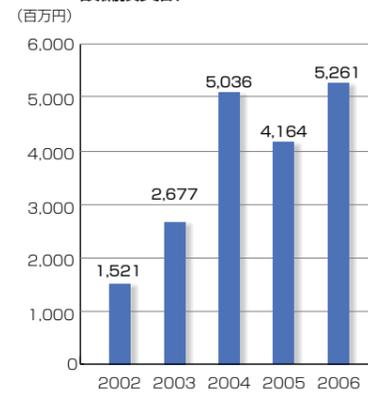
経常利益の推移



従業員数の推移



設備投資額



## EKKの製品

自動車から船舶、航空機、ロケット、そしてケミカル分野、原子力、未来エネルギー等の装置産業に至るまで、EKKの製品は幅広い分野で利用され、人々の暮らしや産業界の発展を支えています。

### 工業用メカニカルシール

使用条件は耐圧性、耐熱性、耐摩耗性、耐食性、回転性能等、多岐にわたります。シールの生命であるしゅう動材料の開発をはじめ、構造研究、生産設備の充実を図り、徹底した品質管理のもとで豊富な形式や寸法を取り揃え、様々な分野の製品を生み出しています。



### 溶接ベローズ

溶接金属ベローズは、独自の薄板技術によって製作される密着型です。腐食性の高い流体や放射線の流体などにも耐え、しかも高圧や高温といった条件下で機器を運転する際のエアスタマーやパッキングにかわる理想的なシール材として開発されました。



### 汎用メカニカルシール

メカニカルシールは、しゅう動面が精度の高い平坦面に仕上げられているため、長期間メンテナンスフリーで使用でき、性能やランニングコスト面で非常に優れています。自動車用の各種ポンプから宇宙開発まで、その利用範囲は多岐にわたります。



### ソレノイドバルブ

エンジン、トランスミッション、カーエアコンコンプレッサー、ブレーキ、サスペンション、吸気系、排ガス系等、アプリケーションごとの高精度、特殊要求機能に適合した軽量・コンパクトなソレノイドバルブです。



### ドライガスシール

ドライガスシール(EE-NF9)は、流体潤滑を不要とした気体用非接触シールです。独自技術を駆使した、両回転対応の画期的製品により、回転機械の省スペース、省エネルギー、低漏洩、メンテナンスフリーを実現し、コンプレッサー、ブLOWER、タービン、ポンプ等の高機能化を推進します。



### 航空機用ダイナミックシール

航空宇宙技術で要求される高温、高圧下の過酷な条件にも耐えうる密封性の高いシールです。エンジンメインシャフトシール、エンジンギアボックスシールや、その他アクセサリーシール、ロケットエンジンシール、ロケットターボポンプシールなどを開発、製造しています。



### リップシール

カーエアコンコンプレッサー軸シールとして開発した製品です。冷媒および冷凍機油のシールに適した構造、材質を採用した、当社オリジナル設計によるコンパクトなシールです。完全自動化による大量生産体制のもとで生み出され、ほとんどの国産車に搭載されています。



### 船尾管シール

船舶の安全航行や海洋汚染防止の役割などを積極的に担っています。EKKの持つゴム材料や構造設計技術を駆使し、さらに蓄積された独自のシール技術を活かし、それら多くの実績から各国の船主、造船所などから高く評価されています。



### カップリング

航空機ガスタービン用カップリングの応用品です。柔軟な変位吸収能力により、あらゆる回転機器の高速化・大容量化に対応します。



### 主蒸気隔離弁

原子炉運転中の万一の事故の場合、主蒸気ラインを隔離するもので、BWR型プラントの「守りの要」でもあります。当社はBWR型プラント用主蒸気隔離弁の唯一の国内メーカーとして、BWR型プラントのほとんどすべてに納入し、常に最高レベルが要求される場でその真価を十二分に発揮し、高い評価を得ています。



## 経営方針

すべてのステークホルダーが誇りを持てる企業を目指しています。

### 経営の基本方針

当社の経営に対する基本的考え方は「企業は株主、従業員、地域社会の3者の共有物であり、これにお客様、サプライヤー、金融機関等を加えたいわゆるステイクホルダーのすべてが常に誇りを持てる会社となる」ということであります。そのために遵法精神に則り、社会に貢献する商品を通して高い収益力を持った強い会社となるよう、不断の企業活動を展開しています。

### EKKのCSR経営

#### 1 お客様

- ニーズにかなった高品質の製品が、合理的なコスト・納期で的確に供給されること
- 納入された製品に関し、維持・修理のアフターケアが適切になされること
- 技術力を持ち、新製品の開発、新分野への展開を支えてくれる信頼できるパートナーであること

#### 2 株主

- 企業価値が着実に向上していくこと
- 配当と企業体質強化のための内部留保とのバランスをとり、長期的かつ安定した適切な株主還元がなされること

#### 3 従業員

- 勤労を通じ適切な報酬を得ること
- 生産活動を通じ社会に貢献すること
- 物質的・精神的両面から豊かな生活を追求する糧が得られ、多様な目標が高い次元で達成される場が提供されること

#### 4 取引先

- 物品・サービスを安定して納め、それに伴う適切な対価が得られること
- 取引を通じ、技術力を高めたり新分野を切り開いたり、あるいはレピュテーション上のプラスアルファが得られること

#### 5 地域社会

- 健全な企業活動が行われ、安定した納税・雇用機会創出がなされること
- 集団として社会との広範な繋がりがはぐくまれ、地域社会の活性化に貢献すること
- 製品の普及を通じ環境保全に資すること

#### 6 金融機関

- 信用供与等の金融取引を反復・継続して行い、リスクに見合った適切な収益が得られること
- 取引を通じ、金融取引における応用性を拡大するとともに、レピュテーション上のプラスアルファが得られること

## EKKのマネジメント

従業員一人ひとりが企業倫理の醸成と実践に努めています。

### コーポレートガバナンス

当社は経営の意思決定がただちに実行に移されるよう常に組織の見直しを行い、同時に大幅な権限委譲と責任の明確化を図り、最大の成果を達成しうる体制をととのえてまいります。特に経営会議をはじめとした各種会議には、その重要性に応じて監査役、労働組合の参加があり、経営の透明性を保っています。さらに経営トップによる本部・事業部診断は、経営層レベルにおける問題点

の把握と共通認識を図る体制になっています。

また企業活動の多様化、グローバル化等に伴い企業としてのリスク管理の重要性が増しておりますので、リスクマネジメント委員会を設置し、有事への備えをいたしております。そのほか全従業員を対象とした行動規範を策定し、モラルの向上を図っています。

#### 事業活動における倫理上の行動指針

会社は、一貫していかなる利害関係者に対しても、倫理上逸脱した行動をとることなく、事業活動を展開しています。従って、従業員の一人ひとりの行動に、企業倫理の醸成とその実践を求めています。そこで、従業員がさまざまな法律上および倫理上の問題を解

決していくための一般的な行動指針を定めました。この指針は、いかなる場面においても、全ての従業員が尊重し、遵守しなければならないものです。

尚、就業規則で既に規定されている事項もありますが、倫理という観点で判りやすくまとめたものです。

##### 1. 倫理の心

会社で働く人々は、誇りをもって仕事に取り組みたいと願っています。ほとんどの人々は、不正なことをやりながら生活したいとは思っていないものです。

自分達の職場で不正な取引や良心に反するような慣習があれば、それに疑問を差し、改善したいと考えています。

本来、職場は、各人にとって自己実現の場であればならず、自己の良心に反しながら苦しみ葛藤する場にはなりません。(麗澤大学:倫理法令遵守マネジメントシステム規格の序文より)

##### 2. あなたの役割

会社は、誠実さ、高潔さ、品格を高めることで社会の評価を受けています。

この評価を保ち高めるには、あなたは、あらゆる場面での意思決定や行動において正しい判断をしなければなりません。

##### 3. 職場の雰囲気

会社は、健康的で安全かつ効率的な仕事ができるように職場環境作りをしています。職場での性的ハラスメント行為、暴言、冗談により職場の雰囲気を不快にすること、周囲を怯えさせること、またはそのような状態を放置したり助長することは、職場環境に好ましくないものとして禁止しています。

##### 4. プライバシー

会社は、個人の収入、健康、福利厚生上の情報等を集積し、行政機関との手続きに利用しており、これらの情報は厳格に管理して情報の保護にあたっています。これらの業務に携わる従業員は、知り得た情報を他のいかなる目的にも利用したりしてはなりません。

##### 5. 会社資産の保護

会社には設備、建物、備品をはじめ、知的財産、一般的な技術情報、及び顧客から預かる機密文書等さまざまな有形、無形の資産があります。これら資産の保護は、全ての社員の責任であり、不正に使用したり、うっかり漏洩したり、盗難に遭うようなことのないように普段から万全の注意をはらわなければなりません。

## 6. 正確な報告

従業員は、業務の成果報告を記録したり、提出したりしています。

例えば、技術者なら試験報告であり、営業なら受注報告であり、研究者なら研究報告であり、経理なら会計報告等です。これらの報告・記録がさまざまに関係する法律に抵触する場合があります。虚偽の報告、記録は会社の経営判断を狂わせることとなります。これらは誠実・正確かつ事実に基づくものでなければなりません。

## 7. 健全な取引関係

会社は、売り手の立場であっても、買い手の立場であっても、これらの取引関係に、法令の遵守と社会の倫理を尊重します。従業員は、取引先の誰に対しても誠実な言動、誤解されない言動に努めなければなりません。この明快で率直な取引関係によって信頼関係を作り上げ、持続的な取引を築きます。

## 8. ライバル社との接触

事業活動において、ときにはライバル社と話しあったり、接触したりすることがあります。このようなときは、製品価格、契約条件、生産計画及び製品の技術情報等について話合うことは、談合として違法となりますので注意してください。

## 9. 他社の情報収集

事業活動、営業活動の中で、他社の情報、ライバル社の製品情報を収集することは適正な営業行為です。これ自体は倫理に反するものではありません。取引先の信用情報、購入先の評価等、目的に応じて正当な手段で情報を収集しています。しかし、収集した情報の利用は目的の範囲に限定されるべきであり、他に漏洩しないように慎重に取扱わなければなりません。

## 10. 使用制限付きの情報利用

お客さまから、製品供給の契約履行に必要な、使用制限付き情報（官公庁からの機密保持が必要な情報等）を文書又は口頭により提供を受ける場合があります。このような場合には、その使用条件について相手方と正式に合意した契約を行わない限り受領してはなりません。更に使用制限付き情報の契約は、稟議規程による承認を必要とし、契約後は、その契約内容に記載された使用・コピー配付・管理の取り扱いをしなければなりません。契約内容を逸脱した取り扱いは、いかなる場合も法律違反と理解しなければなりません。

## 11. 贈答・接待

会社が提供する贈答物はさまざまです。贈る場合も贈られる場合も節度のあるものならば社会的にも法的にも許されています。しかし、議論の余地なく許されない賄賂は受けても渡しても罪になります。

会食や接待というビジネス上の慣習的儀礼は一定の範囲で行ったり受けたりすることが出来ます。しかし、相手方が官公庁職員の場合は、国家公務員倫理法および同規則の施行により法律違反です。

又、国により、これら法律や習慣は異なりますので、現地の法律により適法な行動が求められます。

## 12. 法令の遵守

会社は、コンプライアンス精神を事業活動の原点としています。業務遂行上、各種の法律上の問題に遭遇することがあります。その場合は、所管部門に相談の上、新たな法令の事項は総務部等関係部門に相談し、進めなければなりません。

顧問弁護士の助言を受けることで、未然に法律違反を回避することも出来ます。

2003年10月1日

イーグル工業株式会社  
倫理委員会

# リスクマネジメント

事業活動に潜むリスクを認知し、その顕在化を防止し、クライシス（緊急事態）発生時の対応を定めるため、EKKは2003年に「リスクマネジメント方針」および「リスクマネジメント規程」を制定しました。

各本部・事業部および各関係会社は、「リスクマネジメント方針」に基づき、企業倫理、法令順守の徹底およびリスクマネジメントの推進に努めるとともに、これらの活動を通じてより高い企業倫理の醸成を図っています。

## リスクマネジメント方針

### 基本理念

イーグル工業株式会社及びそのグループ会社の経営に対する基本的な考え方は、「企業は株主・従業員・地域社会の三者の共有物であり、これにお客様、サプライヤー、金融機関等を加えた、いわゆるステークホルダー（利害関係者）の全てが常に誇りを持てる会社」となることです。そのため社会に貢献する商品を通じ高い収益力を持った強い会社となるよう不断の企業活動を展開しています。

この展開に当たってはコンプライアンス（順法精神）を原点として、リスクマネジメントシステムを確立し、企業としての社会的責任を果たします。

### 行動指針

1. 良い商品とサービスを提供することにより社会的評価を高める。
2. リスクを明らかにして、社員の安全・健康並びに経営資源の保全を図る。
3. 危機が発生した場合には、被害を最小に抑え迅速な回復を図る。
4. 外部関係者のリスクを明らかにして、その安全・健康並びに利益を損なわないようにする。
5. リスクが顕在化した場合には、外部関係者に対して責任ある行動をとる。
6. リスクに関連する社会的要請（法令・社会的価値観等の変化）をリスクマネジメントシステムに反映する。

2003年10月1日

イーグル工業株式会社  
代表取締役社長

鶴 鉄二

リスクマネジメントの運用については、以下の組織を置いています。

### ■リスクマネジメント委員会

事業活動に潜在するリスクを抽出・評価し、それらを組織的認識のもと、予防策の推進を図ります。

### ■クライシス（緊急事態）対策本部

クライシスが発生した場合、総力を挙げて緊急に状況の早期把握に努めるとともに、迅速的確な状況判断のもとに、初動体制を確立し、被害の拡大防止を図ります。

### ■倫理委員会

会社の事業運営に伴って発生する倫理上の問題に関して、法令、業界のルール、社会規範に照らし、誠実透明かつ適正なる倫理に則した行動を保証する体制を整えます。また、会社が市場からの信任と評価を得られるような諸施策、および従業員の労働環境を倫理という視点から改善するような諸施策を推進します。

### ■倫理相談窓口

従業員からの倫理疑義事項（法令、業界のルール、社会規範に照らした疑問事項）の解決を図り、適切な企業行動の維持を図ります。

この相談窓口は、社外からの強制的な摘発、従業員等内部者による外部機関への告発、あるいは外部からの批判によってではなく、会社組織自らの力で、従業員の協力を得ながら、不公正な商慣習、違法行為、問題ある取引慣行などを事前に発見し、主体的に解決する「自浄制度」です。

## 中期経営計画

2004年度より、中・長期的な安定成長、安定収益確保の礎となる3ヵ年計画を推進してきました。

### GLOBAL & GI 3ヵ年計画の目標と施策

#### スローガン

GLOBAL & GIの構築～グローバル対応力の構築～

#### 期間

2004年度～2006年度

#### 基本方針

1. グローバルマーケティングの実践と人材の確保
2. ブルグマン社とのアライアンスの成果最大化
3. 材料開発の独自性追求とトライボロジー分野への応用促進
4. AI次世代品目の育成と儲かるGI新商品の開発
5. キャッシュフローマネジメントの徹底

#### 主要推進項目

1. AI海外拡販体制の人的強化と拠点の整備 (東南アジア・中国・インド・アメリカ)
2. インターナルコントロールシステムの構築推進
3. インド関係会社の100%子会社化
4. イーグルブルグマン無錫設立
5. 営業・技術・生産部門の各種プロジェクト推進
6. ブルグマン社との国際ナショナルプラント案件の共同推進
7. ニューセラミックス等新素材の開発
8. 特殊カーボンの改良・開発
9. ハイブリッド化、燃料電池化対応製品の開発 (モーター冷却系部品、各種アクチュエータ、金属シール、その他金属部品応用品)
10. 高機能磁性流体シールの開発、真空保持システムの製品の開発
11. グループ内効率的資金運用の実施

### 目標の達成状況・成果

2006年度における我が国経済は、好調な企業収益を背景に設備投資は依然高い水準を維持しており、雇用情勢にも改善が見られるなど、全般的に底堅く緩やかな回復基調を辿ってきました。しかし一方では、米国の景気減速や金利上昇懸念等、日本経済には、先行きに不透明感も漂う状況が続いています。

このような経済情勢のなか、EKKグループは各部門とも受注が堅調のため海外子会社を含め生産能力の拡充と生産体制の整備を推進してきました。

その結果、当期連結会計年度の連結売上高は788億82百万円(前年比22.7%増)、連結経常利益は75億71百万円(前年比45.5%増)、連結当期純利益は36億79百万円(前年比73.1%増)となりました。

また、EKKグループは2004年度より開始した「グローバル対応力の構築」を基本方針とする「G&GI3ヵ年計画」の最終年

### 今後の課題

EKKグループは2007年4月より中期的な安定成長・安定収益確保の礎となる3ヵ年計画をスタートさせました。

当社の技術力および営業力、そして世界中にサービス拠点をもちつ利点を生かして、顧客へのアフターサービスを充実させることにより、世界規模でのリーディングメーカーになることを目指しています。

この3ヵ年計画では、最終年度売上を1,000億円まで引き上

度を終了しました。その主要施策としては、ドイツの工業用メカニカルシールのトップメーカーであるブルグマン社との営業面、技術面でのアライアンス構築の推進を行いました。また、2006年6月にインドのメカニカルシールメーカー、プナワラインダストリーを完全子会社化し、社名をイーグル・シールズ・アンド・システムズ・インディアLTD.に変更しました。

これらの施策により、世界50数カ国の主要地域で事業を行う体制を確立することができました。また、アジア地域において今後重要な地位を占めることが予想されるインドに完全子会社を有することで、業界の主導権を確かなものとし、グローバル展開の礎を構築した年度といえます。その結果、目標としていた、最終年度売上高620億円、当期純利益25億円、ROA(総資産当期純利益率)4.0%(実績4.4%)を達成することができました。

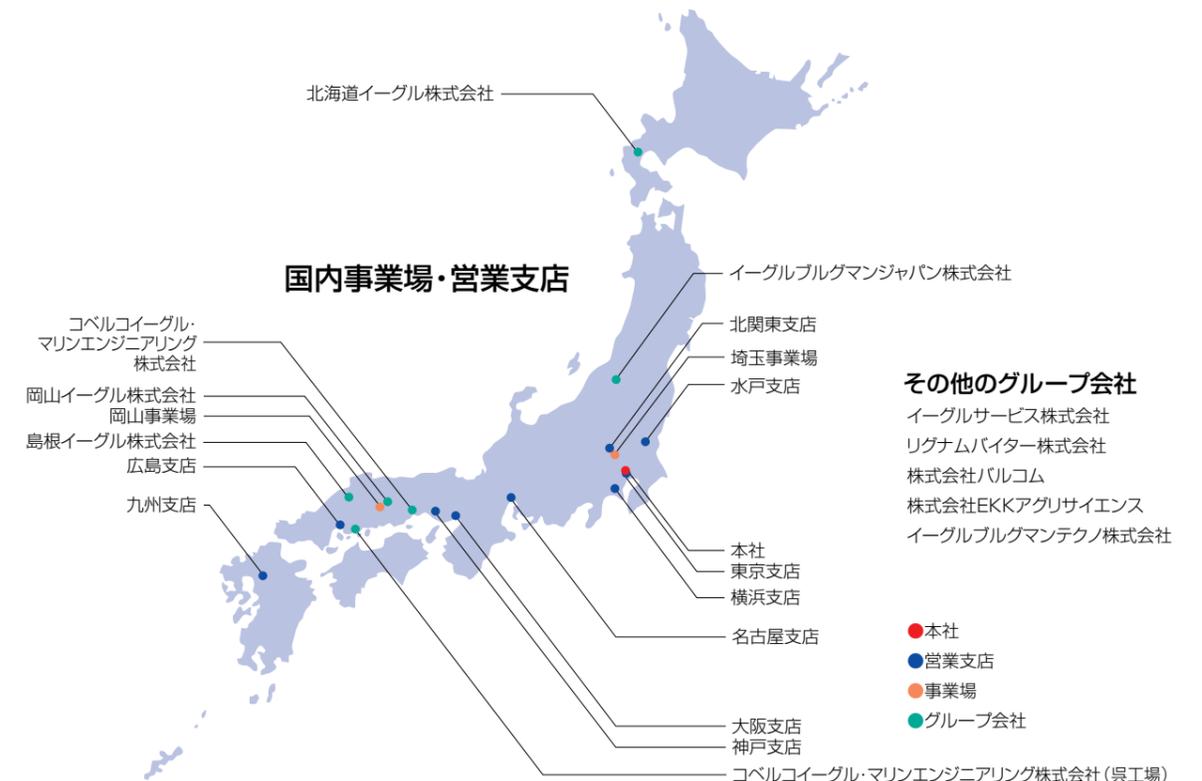
げることを目標としています。そのために、グローバル展開の完成を目指し「攻め」の経営をすすめる一方、有利子負債の圧縮、キャッシュフローマネジメントの充実など財務体質の強化、そして自己資本の充実等を通じて、計画の達成に取り組んでいきます。

各事業部門では、主力のメカニカルシールを中心に、常に製品に改善・改良を加え、技術と営業でシナジー効果をあげて、より一層の増収・増益を達成して行きたいと考えています。

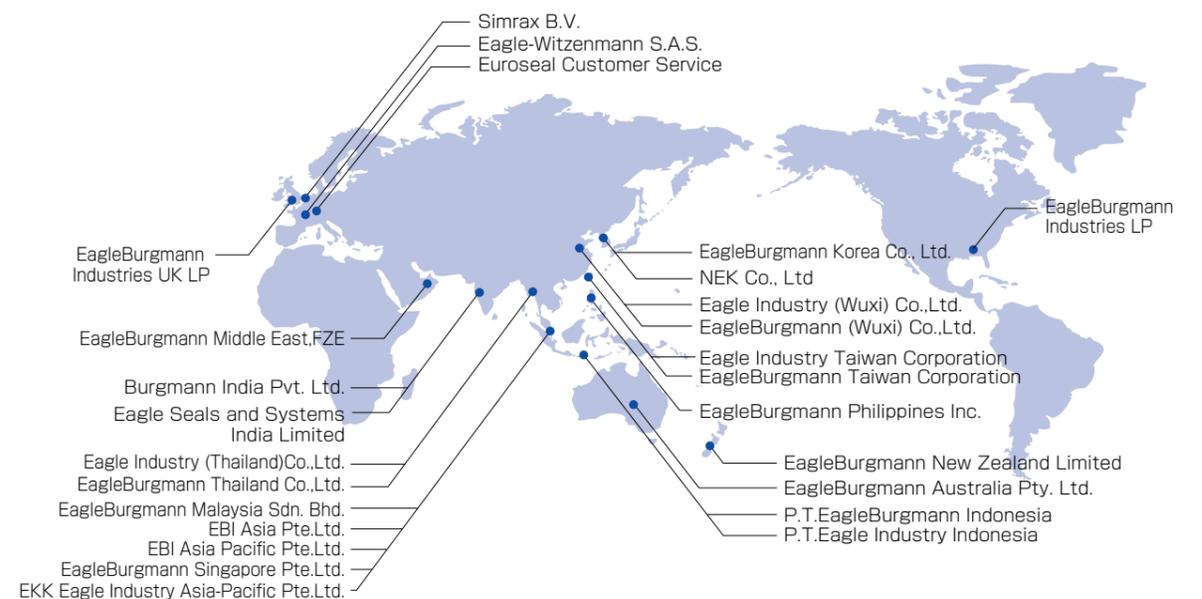
## EKKグループ グローバルネットワーク

国内・海外のあらゆる産業分野へ積極的に展開を進めています。

### 国内事業場・営業支店およびグループ会社



### 海外グループ会社



# 環境マネジメントシステム

環境マネジメントシステムを構築し、継続的な改善を図っています。

## 環境マネジメント方針

### 基本理念

イーグル工業株式会社及びそのグループ会社は、企業が社会の一員であること、及び私達が生産するシール関連製品は公害防止・省エネルギー等環境保護に寄与する製品であることを踏まえ、事業の活動、製品及びサービスが地球規模での環境影響に深く関わりを持つことを自覚し、コンプライアンス（遵法の精神）を活動の原点とし、自主的・継続的に地球環境の保全に取り組みます。

### 行動指針

1. 製品の開発にあたっては、環境影響に配慮します。
2. 省資源・省エネルギーに努めます。
3. 廃棄物の低減と再資源化に努めます。
4. 環境影響の継続的改善及び汚染の予防に努めます。
5. 法規制及び同意するその他の要求事項を遵守します。  
(その他の要求事項とは、例えば「加入している工業会の環境指針」等をいいます。)
6. 環境目的・目標を設定し、適切な頻度で見直し、環境パフォーマンス向上を図ります。

2006年4月1日

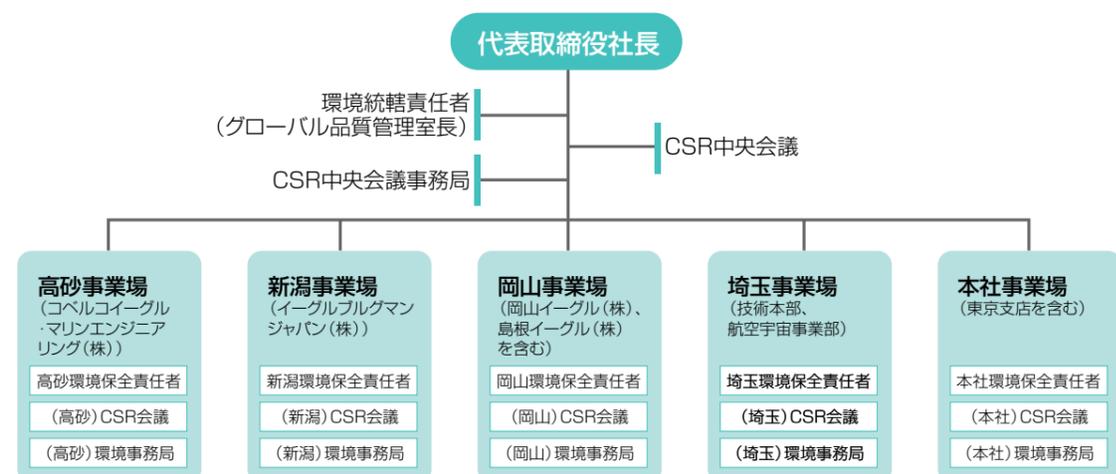
イーグル工業株式会社  
代表取締役社長 鶴 鉄二

## 環境管理組織体制

EKKグループでは、全社規模の環境マネジメント体制を整えています。体制の中心となるのは、社長を議長とし、各事業場の環境保全責任者で構成される「CSR中央会議」です。

ここで決定された目的・目標等のさまざまな取り組み

が環境保全責任者によって各事業場に展開されます。また、各事業場の環境保全責任者を議長とする「事業場CSR会議」が置かれ、ここで確認された各事業場の取り組みは「CSR中央会議」で報告され、経営層によるマネジメントレビューがなされます。



## ISO14001 認証取得状況

EKKグループでは本社及び生産事業場が環境マネジメントシステムの国際標準規格「ISO14001」の認証を一括取得しています。これにより、同一方針、同一目的・目標のもとに、統一の取れた環境保全管理活動を行っています。2007年度は生産事業場だけでなく営業支店にも展開し、認証拡大をする予定です。

### ●EKKグループの統合認証取得状況

審査機関	高圧ガス保安協会
認証取得 サイト	イーグル工業株式会社 本社事業場、埼玉事業場、岡山事業場 イーグルブルグマンジャパン株式会社 コベルコイーグル・マリンエンジニアリング株式会社 イーグル・エンジニアリング・エアロスペース株式会社 岡山イーグル株式会社 島根イーグル株式会社 リグナムバイター株式会社(東京支店) 株式会社EKKアグリサイエンス(東京支店)

### ●その他グループ会社認証取得状況

#### 国内グループ会社

株式会社パルコム

#### 海外グループ会社

- Eagle Industry Taiwan Corporation (台湾)
- EagleBurgumann Taiwan Corporation (台湾)
- NEK Co., Ltd (韓国)
- Eagle Industry (Wuxi) Co., Ltd (中国)
- Simrax B.V. (オランダ)
- Eagle Seals and Systems India Limited (インド)

## 緊急事態対応

EKKグループでは、燃料油・溶剤・廃水処理液などが万が一漏洩した際に備え、定期的に緊急事態対応訓練を実施しています。

2006年度は

- 重油の漏洩を想定した訓練
- 廃棄物置場での廃油などの漏洩を想定した訓練などを行いました。

## 環境教育

全従業員に対し、毎年、環境基礎教育を実施し、また、環境保全の専門教育を適宜行っています。

## 環境に関連する法令等遵守状況

EKKグループ全社で遵守すべき法令等は全部で185項目にのぼります。現在、それらについて100%の遵守状況であることを確認しています。

## EKKの事業活動に関連する環境法令等

- 悪臭防止法
- エネルギーの使用の合理化に関する法律
- 下水道法
- 工業用水法
- 工場立地法
- 浄化槽法
- 振動規制法
- 水質汚濁防止法
- 騒音規制法
- 大気汚染防止法
- 地球温暖化対策の推進に関する法律
- 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律
- 特定工場における公害防止組織の整備に関する法律
- 特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律
- 毒物及び劇物取締法
- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- 特定家庭用機器再商品化法
- ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法
- 特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律
- 河川法
- 瀬戸内海環境保全特別措置法
- 排水基準を定める省令
- 土壌汚染対策法
- 使用済自動車の再資源化等に関する法律
- RoHS指令
- ELV指令

## 環境目標・実績

環境方針に基づき、毎年、具体的目標の達成に向けて取り組んでいます。

### 2006年度の主な実績と2007年度以降の取組み

EKKグループにおける環境マネジメントシステム(EMS)については、2006年度はコベルコイーグル・マリンエンジニアリング(株)(KEMEL)への拡大が認証され、国内生産拠点で「ISO14001」に基づく環境保全体制がととのいました。

エネルギーの使用については、生産量の増加で需要が高まる中、電力調達の効率化や省エネ設備の積極的導入により、CO<sub>2</sub>排出量の目標を2005年に引き続き達成することができました。

反面、製造工程で使用している環境負荷物質については、削減目標を達成することができませんでした。

環境負荷物質については、今後も削減を継続し、特に、トリクロロエチレン及びジクロロメタンといった塩素系溶剤については、2009年3月の使用中止に向けて取り組んでいきます。



環境統轄責任者  
取締役 グローバル品質管理室長  
**梁井 忠正**

#### 2006年度の主な目標と実績

環境目的・目標	目標値	実績値	評価*
鉛・六価クロム含有製品の削減(品目数)	1,050以下	1,791	×
環境負荷物質データベース化(%)	50	64	○
CO <sub>2</sub> 排出量 (ton)	23,650以下	23,289	○
リサイクル率(%)	80	82	○
オゾン層破壊物質の使用量(kg)	3,490以下	4,099	×
トリクロロエチレン・ジクロロメタンの使用量(ton)	110以下	123	×
文房具・事務用品類のグリーン購入率(%)	93	92	○

※社内評価基準:○…80%以上、△…50%以上80%未満、×…50%未満

#### 環境目的・目標(2006~2009年度)

方針	環境目的	2006年度 実績	2007年度 環境目標	2008年度 環境目標	2009年度 環境目標
製品の開発にあたっては、環境影響に配慮する	1 会社の技術・資源等を活用し、環境影響の抑制に寄与する製品または環境配慮型製品を開発する	鉛・六価クロム含有製品数: 1,791品目	鉛・六価クロム含有製品数: 0品目 (100%フリー化)	EKK製品の鉛・六価クロムフリー化100%維持	
	2 環境に関する顧客問合せにスムーズに対応する(環境負荷物質含有量のデータベース化)	データベース化 64%完了	データベース化 100%完了	データベースの維持・管理	
省資源・省エネルギーに努める	3 CO <sub>2</sub> 排出量を2010年までに2005年度対比5%削減する(23,947ton→22,800ton)	23,289ton	23,220ton	23,160ton	23,000ton
廃棄物の低減と再資源化に努める	4 廃棄物のリサイクル化を推進する(2010年リサイクル率:98%)	82%	85%	90%	94%
	5 PCB入り設備(装置)を適正に管理する	適正管理維持を実施	管理手順に従った適正管理		
環境影響の継続的改善及び汚染の予防に努める	6 2010年までにオゾン層破壊物質の使用量を2005年度対比重量(kg)で50%削減する(対象物質:HFC225)	4,099 kg	3,600kg	3,000kg	2,400kg
	7 2010年までに、「トリクロロエチレン」・「ジクロロメタン」の使用を廃止する	123ton	110ton	60ton	0ton
	8 排水を適正に管理する	適正管理維持を実施	管理手順に従った適正管理(法規制等に基づく監視・測定)		
	9 営業部門・関係会社に対するISO14001環境マネジメントシステムの構築指導 対象:営業本部・関係会社5社	認証取得: 関係会社1社  構築指導: 関係会社1社	認証取得: 関係会社1社  構築指導: 関係会社2社 営業部門	認証取得: 関係会社2社  構築指導: 関係会社1社	認証取得: 関係会社1社
	10 事業場敷地周辺の環境美化に努める	事業場周辺の環境保全活動実施	事業場周辺の環境保全活動		
	11 文房具・事務用品類のグリーン購入の推進を図る	92%	95%	グリーン購入率 95%維持	
	12 原料・材料・部品・製品のグリーン購入の推進を図る	グリーン購入基準策定	グリーン購入基準策定	グリーン購入基準運用	
	13 法規制および同意するその他の要求事項を遵守する	ボイラー・エンジン・空調機等に使用する燃料、ボイラー・エンジン・空調機等から放出する排ガスを適正に管理する	管理手順に従った適正管理を実施	管理手順に従った適正管理(法規制等に基づく監視・測定)	

## 省エネルギーへの取り組み

従業員一人ひとりが省エネルギーへの意識を持ち、日々取り組んでいます。

EKKグループでは、省エネルギーによる地球温暖化防止への貢献を重要な課題と捉え、2010年度における二酸化炭素排出量を2005年度対比で5%削減することを目標に取り組んでいます。

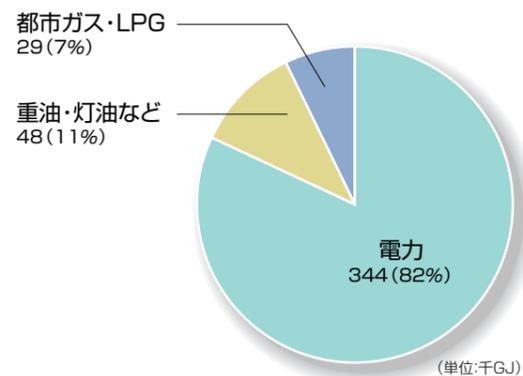
具体的には、各事業場において、生産に必要なエネルギー供給源について重油を必要とする自家発電から公共供給電力に切り替えたほか、各設備のインバーター化を進める等、効率化、低CO<sub>2</sub>化を図っています。

また、従業員一人ひとりの節電活動や、植物を利用した避暑・断熱の工夫など、身近な取り組みも積極的に展開しています。

2005年度以降は、各事業場でこれらの取り組みが奏功し、生産量が上がっているにもかかわらず、目標を超えてCO<sub>2</sub>排出量の削減が進んでいます。

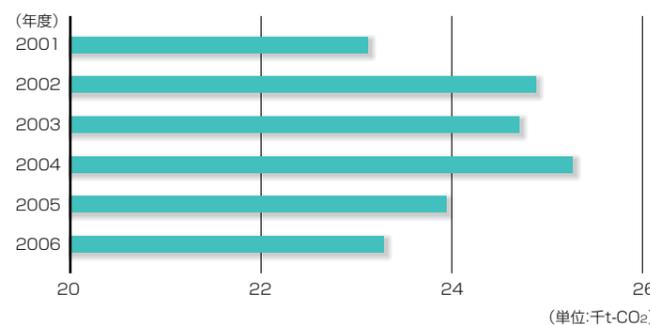
今後も、さらに省エネルギーの取り組みを進めていきます。

2006年度エネルギー使用量の内訳



※ジュールへの換算...「エネルギー使用の割合の合理化に関する法律施行規則」(平成18年3月改正)の係数を用いて算出しています。1GJ=ガソリン約29ℓに相当

二酸化炭素排出量の推移



※CO<sub>2</sub>換算係数は年度の推移を見るために、当社は電気事業連合会の公開数値を参考に設定した値を用いています。  
 (例) 電力: 0.35t-CO<sub>2</sub>/kWh  
 ガソリン: 2.36t-CO<sub>2</sub>/ℓ

## 廃棄物削減への取り組み

リサイクルの推進を通して、廃棄物量の削減に努めています。

事業活動で発生する廃棄物の動向については、ステークホルダーの皆様、それもとりわけ周辺住民の方々から高い関心が寄せられています。EKKグループではこれを「企業の社会的責任」と捉え、安全かつ適正に処理しています。

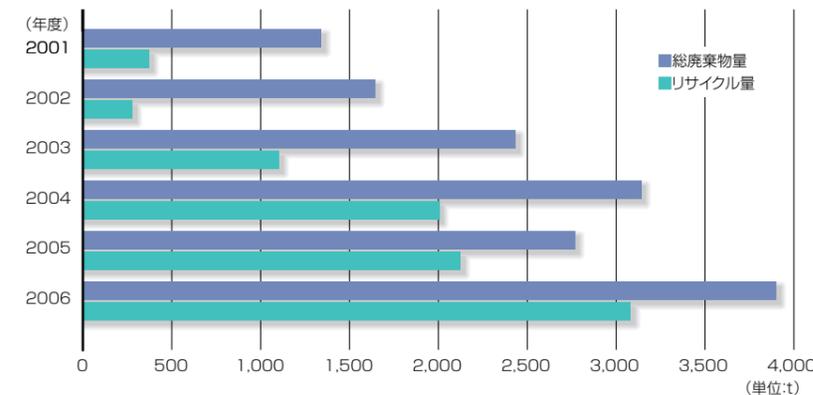
また、循環型社会の実現に向けて、2010年度には「リサイクル率98%」を達成することを目標に、全ての事業活動で発生した廃棄物のリサイクル化を進めています。

2001年度当初、リサイクルできたのは一部の金属廃

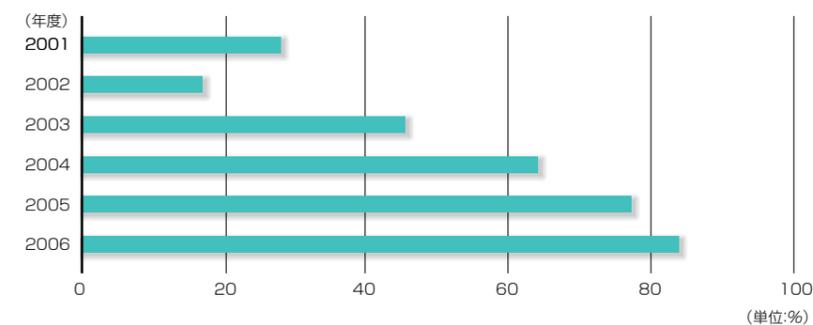
棄物のみでしたが、その後、廃プラスチック、カーボン粉、有機汚泥等をリサイクル化し、2006年度はリサイクル率目標80%を達成しました。

今後も、事業活動の環境負荷低減のため、新たな廃棄物のリサイクル化について積極的に探求していきます。

廃棄物量・リサイクル量の推移



リサイクル率の推移



# 汚染防止・化学物質管理

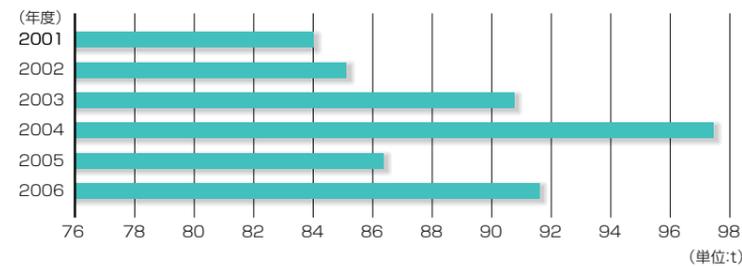
より地球にやさしい事業活動を目指し、継続・改善に取り組んでいます。

## 塩素系溶剤の使用と削減

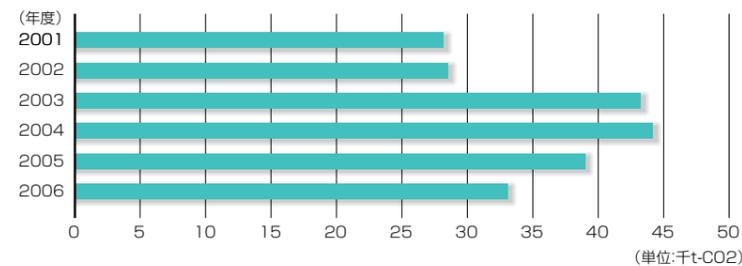
EKKグループでは金属加工品の洗浄等のためジクロロメタンおよびトリクロロエチレンを使用していますが、汚染の防止と、事業活動における環境負荷低減のため2008年度での使用中止を目指して削減に取り組んでいます。

2006年度は、生産量増加のためジクロロメタンについては削減できませんでしたが、2007年度以降は岡山事業場において「塩素系溶剤の全廃プロジェクト委員会」を設置し、代替設備への切り替えを計画的に進めています。

ジクロロメタン使用量の推移



トリクロロエチレン使用量の推移

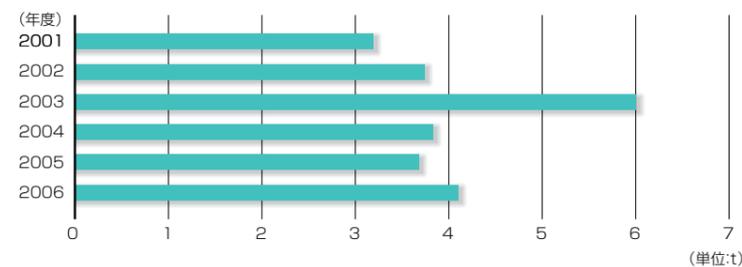


## HCFC225 (オゾン層破壊物質) の使用と削減

EKKグループでは精密部品の洗浄等にHCFC225\*を使用していますが、オゾン層破壊防止のため、2010年度の使用量を2005年度実績の50%とすることを目標に削減に取り組んでいます。

2006年度は生産量が増加したため、塩素系溶剤と同様、これを削減することはできませんでしたが、2007年度現在、回収装置の設置による蒸発防止や、代替剤の導入検討により、削減に向けて取り組んでいます。

HCFC225使用量の推移



\*HCFC225:ハイドロ・クロロ・フルオロ・カーボン225

## PRTR

EKKグループでは、指定化学物質の環境への排出量・移動量の届出を義務付けるPRTR法(特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律)に従い、2006年度は下記7物質について届出を行いました。

る法律)に従い、2006年度は下記7物質について届出を行いました。

政令番号	第一種指定化学物質の名称	排出量[kg]				移動量[kg]	
		大気	公共用水域	事業所土壌	事業所埋立	下水道	事業所外
30	ビスフェノールA型エポキシ樹脂	0	0	0	0	0	150
43	エチレングリコール	0	0	0	0	0	1,800
144	ジクロロペンタフルオロプロパン	3,980	0	0	0	0	320
145	ジクロロメタン	27,000	0	0	0	0	7,900
198	ヘキサメチレンテトラミン	0	0	0	0	0	560
211	トリクロロエチレン	16,000	0	0	0	0	1,900
266	フェノール	0	0	0	0	1	370
	合計	46,980	0	0	0	1	13,000

## 土壌、地下水汚染改良への取り組み

埼玉事業場は昭和40年に開設し、その後、平成9年まで金属製品の洗浄工程においてトリクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタンの塩素系洗浄剤を使用していました。平成7年からの自主調査で、これらによる土壌汚染が生じていることが判明し、また、その後の地下水調査でも汚染が判明しました。土壌汚染については、汚染土壌の入れ替え工事を行い、地下水汚染については、汚染の拡大防止のため事業場敷地境界にバリア井戸を敷設し、また事業場内に汚染除去井戸を敷設し、浄化作業を推進しています。



土壌・地下水の改良



浄化区域

## EU指令 (ELV規制・RoHS規制) への対応

EUは、材料・構成部品に含有される環境負荷物質を排除するため、ELV規制では鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、RoHS規制では前記4物質のほかに臭素系難燃剤(ポリ臭化ビフェニル、ポリ臭化ジフェニルエーテル)の使用を

禁止しました。EKKグループではこれらの規制に対応すべく、対象製品のデータベース化(2007年度完成目標)に取り組むとともに、2008年度末までに上記の環境負荷物質の使用中止を決定しました。

## 事業活動と環境負荷

EKKグループは事業活動に伴う環境負荷を把握し、より効果的な削減活動に役立てています。



## 環境に配慮した製品

EKKグループは製品を通して環境を保護します。

「環境方針」にも掲げているように、当社の生産するシール関連製品は、その目的自体に公害防止・省エネルギー等の機能が求められています。EKKグループはその要求に応え、世界中のあらゆる応用分野で環境保護に寄

### 各種メカニカルシール

メカニカルシールはEKKグループの基幹製品であり、自動車や産業機械、ポンプ等の回転軸周りの潤滑油・作動流体を封じ込める装置です。同じ目的で使用されるグランドパッキンに比べ、密封性能、耐久性に優れるばかりか、動力損失も少ないため、環境汚染の防止、資源およびエネルギーの保護に貢献しています。



### コンパクトタイプメカニカルシール

自動車の冷却水ポンプ用メカニカルシールの改良型で、部品点数が少なく、接着剤等も用いていないため、製造時の省資源化、および廃棄時のリサイクル性を向上させた環境に優しい製品です。

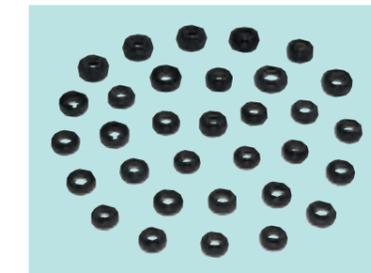


与しています。また、シール製品に限らず、製造・廃棄も含め、より環境負荷の小さい製品の開発を続けています。

ここでは、環境保護に寄与するEKK製品の代表的な例を紹介いたします。

### カーエアコン用リップシール

あらゆる冷媒、冷凍機油に適した材質と構造を選定し、世界中のメーカーに納入しています。この製品の性能が向上したことで、世界中のカーエアコンからフロンガス等の冷媒の漏れを防止し、オゾン層の破壊防止に大きく貢献しています。



### 生分解性潤滑油

〈コベルコイーグル・マリンエンジニアリング(株)製〉

船舶のプロペラ軸に用いる船尾管シールに充填する潤滑油であり、万一海洋に漏洩した場合でも生分解性のため海洋汚染のリスクが低いことが特徴です。

#### 生分解性

特性	試験方法	結果
生分解度	OECD301C	83%

「易生分解性」の基準(60%)を満足



# 従業員とのかかわり

従業員が安全で健康に働ける職場づくりに取り組んでいます。

## 安全衛生方針

### 基本理念

イーグル工業株式会社及びそのグループ会社は、愛情と信頼の会社理念のもと、コンプライアンス（順法の精神）を活動の原点として社会的責任を果たし、社会に貢献する製品を提供することにより、持続性があり夢と誇りを持てる企業を従業員と共に目指します。

この理念のもと、心身ともに健全で活力ある人材を育むと共に、無事故・無災害で快適な働き甲斐のある職場の実現に向け、安全衛生マネジメントシステムを構築して労働安全衛生活動に取り組めます。

### 行動指針

1. 全従業員の参加・協力のもと、事業活動に伴う危険源を的確に把握して評価し、重大リスクの低減に取り組めます。
2. 安全衛生目標を設定し、継続的改善により、パフォーマンスの向上を図ります。
3. 法規制及び同意するその他の要求事項を順守します。  
(その他の要求事項とは、例えば「加入している工業会の指針・綱領」等をいいます。)
4. 安全衛生及び健康確保は、良好なコミュニケーションの下に実現されるとの認識に立ち、労使間・職場間の活発な議論や協議を尊重します。
5. 安全衛生及び健康の確保に必要な教育・訓練を実施し、安全衛生・健康の重要性について周知に務め、意識高揚を図ります。

2006年4月1日

イーグル工業株式会社  
代表取締役社長 鶴 鉄二

### 安全衛生の取り組み

当社グループは、2006年度よりOHSAS18001に基づく労働安全衛生マネジメントシステムを国内関連会社を含む全社に導入し、安全衛生管理体制の充実に努めてきました。安全衛生管理については、従来よりPDCAサイクルを回して推進していましたが、システム導入により、リスクアセスメントの実施、内部監査の実施、および経営層による安全衛生実施状況の見直し評価が加わり、システム導入1年目としては、今まで以上に、安全衛生対策の実施を図ることができました。2年目の2007年度は、内部監査を環境マネジメントシステム(ISO14001)の内部監査と

同時に行い、安全衛生と環境管理の相互連携をしていく予定です。

\*OHSAS:Occupational Health and Safety Assessment Series



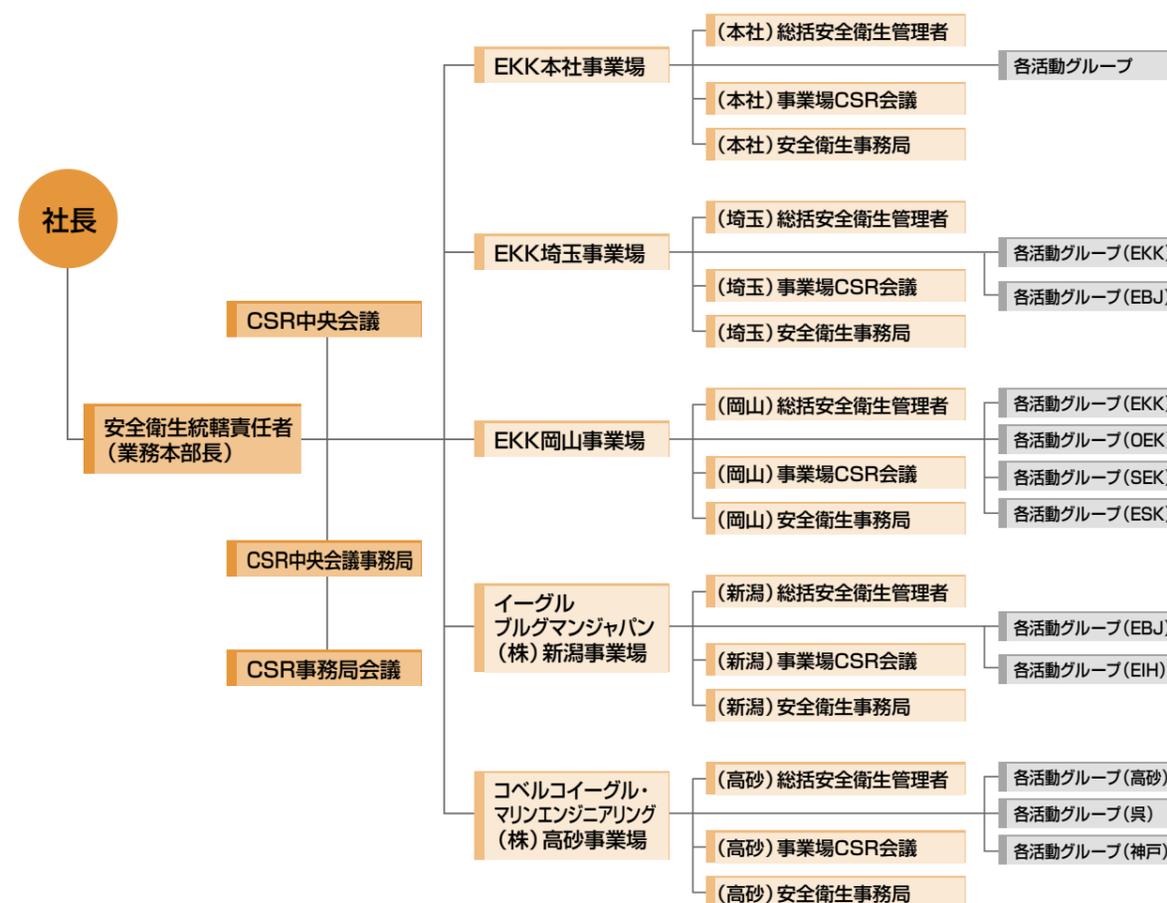
安全衛生統轄責任者  
常務取締役業務本部長  
猪谷 哲也

### 安全衛生管理体制

EKKグループは、「安全衛生マネジメント規程」において、全社の安全衛生統轄責任者を本社の業務本部長とし、国内を本社事業場、埼玉事業場、岡山事業場、新潟事業場、高砂事業場の5つに分けて安全衛生管理を実施しています。2006年度は、リスクアセスメントの導入により、各自が職場のリスクを把握し、安全衛生リスクを低減するよう努めてきました。

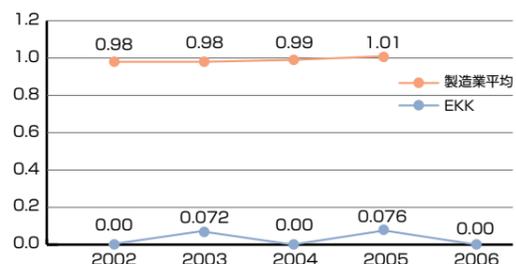
2007年度はリスクアセスメントの定着を図り、さらには安全衛生関連法令の順守徹底、社内安全衛生ルールの順守励行を推進し、コンプライアンス重視で内部監査を進め、災害防止および健康増進に有効なOHSMS\*となるよう取り組んでいきます。

\*労働安全衛生マネジメントシステム(OHSMS):  
Occupational Health and Safety Management System



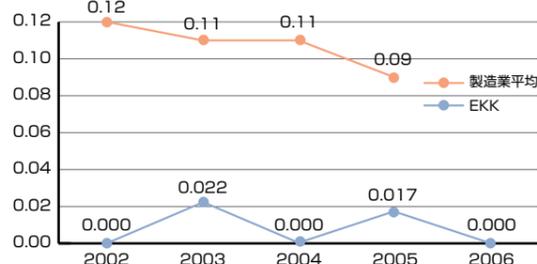
### EKK国内労働災害発生状況 (対象事業場:埼玉事業場、岡山事業場)

#### 災害度数率の推移



※災害度数率:100万延べ実労働時間あたりの被災者数(災害の発生頻度を表す指数)

#### 災害強度率の推移



※災害強度率:1000延べ実労働時間あたりの労働損失日数(災害の重さの程度を表す指数)

### 心と体の健康

EKKグループでは、従業員の身心の健康維持、増進を目的として、24時間電話健康相談サービス(無料)を提供している他、全従業員を対象としたメンタルヘルスマナーを開催しています。

### 職場環境改善の取り組み状況

EKKグループでは、1993年より職場改善の取り組みを開始し、第一次、第二次に分けて、作業環境管理(騒音、暑熱、寒冷)、作業管理(作業姿勢・重量物の取り扱い)に関する対策を行ってきました。

2006年度は2004年11月に制定された「第三次職場改善計画」に基づき、サポートシステム管理(リラックスするための施設・職場生活に不可欠な施設の整備)について対策を行いました。中でも喫煙所の整備については、職場での分煙を進める上で重要な対策と位置付け、分煙化を展開しています。



本社・喫煙室



イーグルブルグマンジャパン株式会社・喫煙室

### 障がい者雇用への対応

EKKグループでは、障がい者の方々働きやすいように、適性に応じた職場への配置、障害者の方々に従事していただく業務の創出を進め、雇用拡大に取り組んでいます。

### 福利厚生

EKKグループでは、「毎日の生活の充実」「不時の場合の生活保障」「定年後の生活の安定」をキーワードに、福利厚生の充実に努めています。

#### ■主な福利厚生制度

目的	内容
財産形成	従業員持株会 他
会社生活と家庭生活の調和	育児休暇、介護休暇 他
経済的安定	退職金制度 他
住居等	社宅、独身寮制度、自動車リース 他

### 次世代育成計画

EKKグループでは、子育てを行う従業員が会社生活と家庭生活を両立できるよう、所定外労働の削減、および年次有給休暇の取得促進を図るなど、雇用環境の整備に努めています。

### 国際化人材育成制度

EKKグループではグローバル化に対応するために英語学習を奨励し、社内英語講習会等を実施しています。業務上での語学を必要とする従業員を語学専門学校に派遣しています。これまでの語学学校への派遣実績は下記の通りです。

#### ■語学学校への派遣人数

年度	人数(名)
2004	18名
2005	27名
2006	45名

### 従業員の新卒採用数

EKKでは、毎年従業員の積極採用を行っています。2006年度の新卒採用従業員は30名であり、従業員の平均勤続年数は、20.4年でした。

### 交通安全

EKKグループでは、交通安全教育の一環として、各社・各支店で交通安全講習会を実施しています。講習会では、飲酒運転などの違反防止の徹底や、運転マナーの向上などを呼びかけています。また、永年にわたり、無事故無違反の従業員に対しては、5か年ごとに表彰を行っています。2006年度はEKKで137名が受賞しました。

また、交通事故や違反を行った従業員には、業務上運転か私用運転かを問わず、「事故報告書」「違反届」を提出してもらい、職場ごとに自戒を促がし、再発防止に努めています。



交通安全一声運動



交通安全講話(埼玉事業場)

### 従業員とのコミュニケーション

#### ●表彰制度

EKKでは毎年、常に他の模範となり業績向上に特に貢献した従業員の労をねぎらうとともに、モチベーションの向上を図る目的で従業員表彰を行っています。2006年度の表彰実績は下記の通りです。

また「EKKグループ企業無災害記録表彰規程」により、生産事業場の無災害記録を表彰しています。2006年度表彰実績は下記の通りになります。

#### ■2006年度従業員表彰

表彰内容	受賞者数
団体表彰	1グループ
勤務成績優秀者表彰	4名
発明考案表彰	1名
製造改善表彰	39名
販売優秀表彰	12名
事務改善表彰	12名
永年勤続者表彰	56名

#### ■2006年度 EKKグループ企業無災害記録表彰

表彰先社名	無災害日数
イーグルサービス株式会社	5000
コベルコイーグル・マリンエンジニアリング株式会社 呉工場	3000
北海道イーグル株式会社	3000
岡山イーグル株式会社	500
リグナムバイター株式会社	500



# 社会とのかかわり

企業としての社会的責任を果たし、ステークホルダーとのコミュニケーションを大切にしています。

## コミュニケーション活動

EKKでは、事業報告書、英文アニュアルレポートなどのコミュニケーション媒体を発行しているほか、インターネット・ウェブサイトによる情報公開を行っています。

事業報告、およびその他の情報はEKKウェブサイトよりご覧いただけます。

URL <http://www.ekk.co.jp/>



## 株主・投資家の皆様への情報公開

EKKグループは2006年5月に決算説明会を、また11月に中期決算説明会を開催しました。企業アナリスト、機関投資家のファンド・マネージャー、マスコミ関係の方々に向けて、当社経営陣が決算情報や事業内容について説明を行いました。参加された方々からは、メカニカルシール事業をはじめとして多岐にわたる質問があり、活発な質疑応答が行われました。



英文アニュアルレポート2006年度版

## 展示会への出展

EKKグループでは、幅広いお客様との相互コミュニケーションを推進するために、各種展示会へ積極的に参加しています。2006年度の実績は下記の通りです。



セミコンジャパン2006

### ■2006年度展示会への出展実績

展示会名	期間	会場
ファインテック・ジャパン／フラットパネルディスプレイ研究開発・製造技術展2006	4/19～4/21	東京ビッグサイト
ACHEMA2006	5/15～5/19	ドイツ・フランクフルト国際見本市
35回 TURBOMACHINERY SYMPOSIUM	9/26～9/28	アメリカ・ヒューストン
紙パルプ技術協会 平成18年度 年次大会(福岡大会)	10/11～10/13	福岡国際会議場
セミコンジャパン 2006	12/6～12/8	幕張メッセ
23回 PUMP USER SYMPOSIUM	3/5～3/8	アメリカ・ヒューストン

## 地域社会とのふれあい

### 夏祭りレポート

EKKグループの各事業場では、毎年7月から8月にかけて夏祭りやパーティーを開催し、従業員やその家族、地域住民の方々との交流を図っています。

地域の方々にも楽しみにしていただき、毎年多くのご参加をいただいています。各事業場ではそれぞれ工夫をこらした模擬店や部署対抗の仮想イベントなども行いました。今後とも地域の皆様とのふれあいを大切にさせていただきます。



岡山事業場夏祭り

埼玉事業場夏祭り

### 地域社会との交流

岡山事業場では地域の方々に事業所内のグラウンドを開放し、ご利用いただいています。



少年野球

グラウンドゴルフ

### 団体への参加・寄付活動

EKKが参加している団体は下表の通りです。2006年度に行った主な寄付活動としては、「インドネシア・ジャワ島中部地震義援金」120万円、「平成18年度国際協力活動支援拠出金」10万円をそれぞれ寄付しました。

#### ■加盟・参加団体

業界団体
社団法人 日本産業機械工業会
社団法人 日本自動車部品工業会
社団法人 日本航空宇宙工業会
社団法人 日本船用工業会
社団法人 被害者支援都民センター
警視庁管内特殊暴力防止対策連合会
環境・安全関連
東京衛生管理者協議会
中央労働災害防止協会
日本産業衛生学会
エネルギー・資源学会
みなと環境にやさしい事業者会議



岡山事業場 清掃活動

新潟事業場 清掃活動



埼玉事業場 清掃活動

### 個人情報保護

EKKグループはお客様個人を識別する情報の重要性を認識し、その保護については「個人情報の保護に関する法律」などを順守するとともに、プライバシーポリシーに従い管理を徹底し、「個人情報保護規程」を定め、お客様に安心してご利用いただけるよう活動しています。

## 環境投資

2006年度のEKKグループの環境に関する投資金額は、360,926千円となりました。主な内容は、岡山事業場での塩素系溶剤全廃計画に伴う代替洗浄機の導入、埼玉事業場では土壌汚染改良、新潟事業場では、排水処理設備最終放流口の異常排水監視装置の設置等があります。

### 2006年度の環境投資の主な内容

#### (1) 埼玉事業場 (35,621千円)

- 土壌汚染改良工事
- 空調設備省エネ工事
- 真空路配管省エネ化工事
- 生活排水処理施設改造

#### (2) 岡山事業場 (195,448千円)

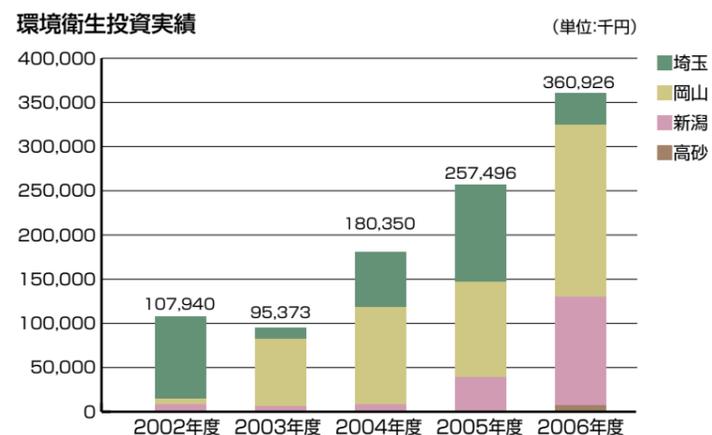
- 非塩素系溶剤代替洗浄機の導入
- 油水分離槽の設置
- 防水堤の設置
- 島根イーグル排水処理設備増設

#### (3) 新潟事業場 (123,277千円)

- 空調設備更新工事
- 異常排水監視装置
- 各配水管汚泥除去

#### (4) 高砂事業場 (6,580千円)

- 呉工場合併浄化槽設置



**フォークリフトの電動化 (岡山事業場)**  
古くなったフォークリフトを電動型に更新し、CO<sub>2</sub>排出量を約6t/年削減しました。



**給湯設備の省エネ化 (岡山事業場)**  
給湯設備をLPG式から電力に変更することにより、CO<sub>2</sub>排出量を約35t/年削減しました。



**排水放流口へ異常排水監視装置を設置 (新潟事業場)**  
雨水系排水へ油等が流出しないことを濁度検出と油の有無で常時監視しています。異常があった場合は即座に排水ゲートが閉止し、近隣への汚染拡大を防止します。



**生活排水処理施設改造 (埼玉事業場)**  
生活排水汚泥槽を耐腐食性の高いFRP製に変更し、割れ等のリスク軽減及び長寿命化を図りました。

## 安全衛生投資

2006年度EKKグループの安全衛生投資金額は85,833千円となりました。主として工場棟の暑熱対策、粉じん作業対策としての局所排気装置の更新、クレーンの安全対策、職場の分煙対策を中心に投資を進めてきました。2007年度は耐震対策に重点を置き、投資を進める予定です。

### 2006年度の安全衛生投資の主な内容

#### (1) 埼玉事業場 (5,986千円)

- 喫煙室設置

#### (2) 岡山事業場 (57,085千円)

- 工場棟暑熱対策
- 設備安全対策
- 油水分離槽改修

#### (3) 新潟事業場 (20,854千円)

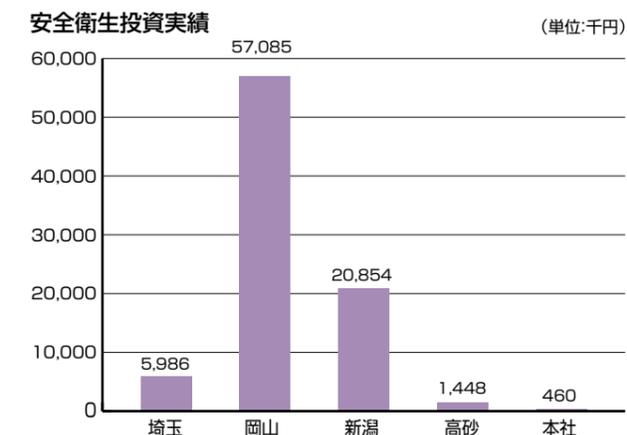
- 局所排気装置改修
- 設備振動対策
- 消防設備更新

#### (4) 高砂事業場 (1,448千円)

- クレーン安全対策\*

#### (5) 本社事業場 (460千円)

- 喫煙室設置



**ロール安全対策 (岡山事業場)**  
非常停止時のエリアセンサーを見直しました。



**局所排気装置改修 (新潟事業場)**  
局所排気装置改修を行い、開口部をスライド式にすることで、有機溶剤の拡散の防止をしました。



**クレーン安全対策 (高砂事業場)**  
高砂事業場クレーンの老朽化に伴い、作業の安全確保のためクレーンの改修を行いました。

※高砂事業場のクレーン安全対策は株式会社神戸製鋼所の全面協力の下行われております。



# サイトレポート

各事業場、各関連会社では、同一方針のもと環境負荷低減、安全衛生への取り組みに努めています。

## 本社事業場



事業場長  
常務取締役  
業務本部長  
猪谷 哲也

本社事業場は、EKKグループの環境および安全衛生活動の統轄部門が所属するとともに、唯一、非生産事業場としてオフィス・営業部門を中心とした活動を展開しています。環境面ではいわゆる紙・ゴミ・電気といった身近な活動にとどまらず、例えば営業部門においては環境に優しいEKK製品の拡販を環境指標と位置づけて推進しています。安全衛生面においては、交通安全の指導やメンタルヘルスへの取り組みを中心に、健康で安全な職場の創出に努めています。

## 埼玉事業場



事業場長(兼務):  
常務取締役  
業務本部長  
猪谷 哲也

新工ミッションシールの開発完了、CO<sub>2</sub>排出量5%削減(前年比)および廃棄物のさらなるリサイクル化を達成しました。また、事業場周辺の環境美化活動を実施し地域住民の方々に好評を得ております。

今後も環境影響の抑制に寄与する製品の開発、CO<sub>2</sub>排出量・オゾン層破壊物質の削減を継続して行います。

[主な生産品]  
●ジェットエンジン用シール●ロケット用シール等の航空宇宙機器用シール

## 岡山事業場



事業場長  
取締役 岡山事業部長  
青野 文章

岡山事業場は、美しい山々と清流にはぐくまれた高梁市に位置します。2006年度は、地域の皆様にグラウンドを開放しグラウンドゴルフ・少年野球などに活用いただきました。また、事業場内では塩素系溶剤削減を目的に「塩素系溶剤の全廃プロジェクト委員会」を設立し2008年度末全廃に向けた推進計画を策定し活動を推進してきました。今後も、CO<sub>2</sub>排出量削減・リサイクル率の向上など企業としての役割を果たして行きます。

[主な生産品]  
●汎用メカニカルシール●コントロールバルブ●原子カプラント用特殊バルブ

## イーグルブルグマンジャパン株式会社



事業場長  
取締役社長  
轟 隆則

当社は、県都・新潟市の南東に位置し、良質で豊富な水資源に恵まれ、緑豊かな山々や清流に囲まれた自然あふれる五泉市にて事業活動を行っています。四方を山々や水田に囲まれた立地条件から、特に環境保全活動においては、徹底した排水水質管理を初めとして、CO<sub>2</sub>排出量の削減、廃棄物のリサイクル化を推進、また、従業員による工場周辺の環境美化清掃活動なども実施しています。

今後も、地域の更なる発展と近隣環境の継続的な保護に向けて、環境保全活動を推進して行きます。

[主な生産品]  
●工業用メカニカルシール●攪拌機用メカニカルシール●ダイアフラムカップリング●溶接ペローズ●磁性流体シール●舶用器製品●焼結機械部品

## コベルコイーグル・マリンエンジニアリング株式会社



高砂事業所



呉工場



事業場長  
取締役社長  
吉岡 肇

環境保全活動として、CO<sub>2</sub>排出量の削減、廃棄物の分別、リサイクル活動、グリーン購入等を推進しました。廃棄物に関する活動では、切削屑の分別(材料別)回収を主体に89.9%のリサイクル率を達成致しました。

呉工場では、小型船舶用プロペラの修理に長年培った大型船での補修技能を活用し、修復・再生を行う事業を展開し、資源の枯渇防止に寄与しています。高砂事業所では、軸受け材での製品使用環境物質である鉛の使用を廃止しました。

[主な生産品]  
●船尾管シール装置 ●船尾管軸受け ●中間軸受け ●プロペラ修理

## 岡山イーグル株式会社



取締役社長  
田中 和喜

2006年度環境保全活動として、トリクロロエチレン、ジクロロメタンの使用量の監視と代替剤の検討、廃棄物のリサイクル化拡大、廃棄物の分別管理を実施しました。

2007年度は、設備増設・品目移管受入に伴う排水処理施設の新設、トリクロロエチレン、ジクロロメタンの全廃に向けた代替洗浄機の導入を実施します。

[主な生産品]  
●メカニカルシール ●フローティングシール ●メカトロニクスバルブ製品

## 島根イーグル株式会社



取締役社長  
金田 忠明

当社は島根県の東部に位置し、下流域にはシジミの名産地でもある「宍道湖」を擁しています。場所柄水質の管理には重責を感じ、企業の責任を果たすべく生産活動・環境管理を行なっています。ジクロロメタンについては全社方針に従い、2008年度全廃へ向けた代替剤への検討を進めています。今後は代替剤に対応する設備を導入し、環境・品質双方を満足させ、会社の発展ひいては地域の発展・近隣環境の保護に繋げていくよう環境管理活動を推進していきます。

[主な生産品]  
●リップシール ●ソレノイドバルブ

### 編集後記

EKKグループの「CSR報告書」をお読みいただき、ありがとうございました。今回、初めての試みとして2007年度CSR報告書を創刊しました。企業に対する環境面・社会面での考え方が厳しくなる中、環境・社会性報告書として、それぞれの情報のバランスを考え、ステークホルダーの皆様にもわかりやすくお伝えできるよう努めました。この方針のもと、会社概要、省エネルギーへの取り組み、社会とのかかわりなどを掲載しました。これから先、環境や安全衛生の法律・規制等が変化していく中で、

弊社は社会の一員としてしかるべき対応をとり、それをお伝えしていければと思っております。今回が創刊ということで何かと不十分な部分があるかと存じますが、是非「CSR報告書」をお読みになった皆様に率直なご意見・ご要望をいただきたいと思っております。その貴重なコミュニケーションを反映してCSR報告書の内容の充実はもとより、EKKグループにおける環境・社会活動の向上を図っていきたくと考えています。



イーグル工業株式会社  
〒105-8587 東京都港区芝大門1-12-15 正和ビル  
<http://www.ekk.co.jp/>



この報告書は、FSC認証紙、VOC（揮発性有機化合物）成分ゼロの100%植物油インキ、VOC発生を大幅に削減できる水なし印刷を採用し、環境に配慮したグリーンプリンティング認定工場で作りました。また、CTP（Computer To Plate）方式の採用により、製版工程におけるフィルム等の中間材料を全廃しています。